

第3回県体育館及び陸上競技場兼サッカースタジアム整備検討委員会 議事要旨

1. 日 時 平成20年2月27日(水) 10:00~12:30
2. 場 所 ニューみくら306会議室
3. 出席者 委 員 黒後会長、倉田委員、橋本委員、森島委員、市村委員、熊田委員、
平山委員、宮本委員、大谷津委員、坂本委員
欠席者なし
4. 開 会
(1) 森島スポーツ振興課長による挨拶
(2) 黒後会長による挨拶
5. 議 事
(1) 第2回委員会の結果について一括して事務局より説明。
以下主な内容。

県体育館及び陸上競技場兼サッカースタジアム整備の基本的な考え方～新たな体育館及びスタジアムの果たすべき役割～について

- ・これからはいつでもどこでもスポーツやニュースポーツを楽しめるとか、スポーツ文化の情報発信基地でないといけないのではないか。
- ・スポーツを行っている人たちの主な施設という捉え方ではなく、スポーツを体験していない人たち等を取り込んでいく、開放的な施設が求められているのではないか。
- ・国際試合とか日本代表の試合とかを誘致するとか、多目的の利用を視野にいれて、人が集まりやすいとかいろいろなイベントがやりやすいというのを踏まえた興行性ということで考えていただきたい。熊本県のKKWINGの3万人規模というのは最低限必要になるし、国際試合を招致するには3万人くらいの固定席が必要になる。
- ・本県スポーツの象徴ということにとどまらず、本県の象徴というぐらいの役割を基本ベースにしていきたい。

新しい施設に求められる機能

県体育館及び陸上競技場兼サッカースタジアムについて

- ・現在の総合運動公園内の宿泊施設の収容人員では少ない。指導者や競技者を育てる役割ということは研修や合宿を宿泊を伴ってできるということが非常に大事であるので宿泊研修施設整備もお願いしたい。

・現在の宿泊施設は古くなってきている。建設当時は機能的にはすばらしかったが、今はバリアフリーも必要とされており、長期的に改修を含めて計画を進めていただきたい。また、トップアスリートだけではなく、一般の県民が宿泊できることが理想である。

・トップアスリートを養成するために研修施設とか合宿所的なものを充実させるということとは必要だが、一般県民まで宿泊可能となる施設ということは県の施設としては優先順位が低いと思う。

・体育館そのものが、全国から集まったトップアスリートのための機能を優先的に考えるのが一番良いと思う。栃木県に不足しているのは他県の代表選手が集まった時に誇れる施設が無いことだと思うので、誇れる体育施設の役割が一番必要ではないか。

・聴覚障害者のためにオーロラビジョンには手話通訳画面や字幕画面の機能をお願いしたい。LED式情報伝達装置も火災・雷などの緊急事態に備えてフラッシュによる表示を可能にした方がより効果的である。また、エレベーターも緊急時に外部との連絡手段がとれるような配慮等をお願いしたい。

県体育館について

・体育館がアイスホッケーと兼用可能になれば、3つのプロスポーツが一箇所で観戦出来るのではないかと。

・第1回の委員会でも話したが、フットサルについても利用可能にしていきたい。

陸上競技場兼サッカースタジアムについて

・サッカーも陸上もそうだが、ゴール裏に観客が入る。オーロラビジョンが1基だと片側の人が見えなくなり全く見えなくなってしまうので2基は必要になると思う。また、選手控え室や会議室等の配置も考慮していただきたい。

・オーロラビジョン2基というのは障害者の立場からも理想である。

新しい施設に求められる規模

県体育館及び陸上競技場兼サッカースタジアムについて

・特になし

県体育館について

・メインアリーナに何故バスケットボールコート4面必要かは全国・国際クラス等いろいろな大会が機能的に運営可能で、観る側としても非常に観やすいということが一番だと思う。

・バレーボールやバスケットボール等の大会は、ドローの関係で2の倍数で運営されるため、メインアリーナでの4面展開のメリットが大きい。

・メインアリーナ3面とサブアリーナ1面を併用して4面展開で大会を運営するとなると、同じ大会であっても違う条件での試合となり、サブアリーナで試合を行うチームは不公平となる。

・観客席については、北海道のきたえーるや群馬アリーナは固定席3,000~4,000の範囲である。バスケットボールコート4面であれば、かなりのフロアベースがあるので、可動式で5,000席に増やしていくのが実情にあった規模なのではないか。

・全国大会に限らず国際大会等も開催出来る施設にしたほうが良いと思うので他県の例を参考に4,000~6,000席が妥当だと思う。

・サブアリーナでバスケットボールコート2面、メインアリーナで4面とれば大会を行った時にサブアリーナでは多目的な利用が可能になる。また一度に2つの大会も可能ではないかと思う。

・県内のどの体育館もサブアリーナの固定席が無いのが実情である。県内大会を考慮すればあったほうが良い。4面あるメインアリーナが全て稼働していないときは、1面を流用して3面を使った大会も可能であるし、大会のやり方によってはサブアリーナにも固定席があったほうが県内大会はやりやすいと思う。2つの大会も同時に行うこともできるし、1,000席は必要無いにしても、大会関係者以外も観に来るのであったほうが良いと思う。

・いろいろな競技団体で体育館の利用に関して苦労しているのが実情であるが、メイン4面、サブ2面となるとメインで中学生の大会を行い、サブで小学生の大会を行うといったこともできる。

・基本的に武道館は独立した建物であると考える。メイン武道場(柔道6面・剣道6面)については、高校生のインターハイでは6面で試合を行うことが理由である。またそのような大会では柔(剣)道場2面が練習会場となる。メイン武道場の観客席1,800席というのは現在の県体育館の規模。柔・剣道場のそれぞれ固定席400席ずつというのは、武道関係のいろいろな大会が開催可能な施設ということで考えている。

・弓道場が独立してできるということを考えると、300人程度の選手や応援の人たちが雨・雷時の対応も含めて入れる屋根付きの観客席が必要ではないかと思う。

・遠的は一つのチームが3人で行い、3人、3人という形で6人立ちという形になって大会を行う。現在の県体育館の弓道場では遠的6人立ちという形で正式な大会は出来ないということで非常に困っていると聞いている。近的も大会時の練習は8人で行えるが、大会

は3人、3人という形の6人立ちで行わなければならないので、非常に時間がかかるし、運営上の支障もある。

・近似的は国体や関東大会では3人1チームで、3の倍数が望ましい。3人×4チームが同時に競技ができるということで12人立ちとなっている。インターハイなどは5人1チームなので、12人立ちであれば5人×2チームの10人で開催ができる。

・北海道のきたえーるは県の体育協会関係の各主要な競技団体がその中に事務所を構えて連携をはかっているのが非常に機能的だと思う。レクリエーション協会も含めて、主要な団体がそこに事務所を構えられれば非常に機能的ではないかと思う。

・トレーニングルームは体力測定を行うこととトレーニングルームを連結して考えなければいけないと思う。新しい体育館は科学委員会の先生方が活躍出来る場が必要ではないかと思う。体力測定を含めると週に1回くらいは常時トレーナーとかドクターが来ていて、県民やトップアスリートを診断するとかいろいろ測定できるような施設を是非お願いしたい。

・スクリーン及びステージが付いた多目的ルームのような施設を是非整備してもらいたい。

・トレーニング室は鹿沼のフォレストアリーナのトレーニング室くらいの規模でその一角に体力測定ができるようなところがあれば良いと思う。

・国体も20年後に回ってくることも考慮すると、総合運動公園の屋外プールを屋内プールに改修することも含めて長期的に考えていただきたい。栃木県は国体でシンクロの深さでトレーニングできるような状況はなかなか無いし、チームも出ていない。飛び込み、シンクロ、競泳が一体となったプールが長期的には、あったほうが良いと思う。

・インターハイについては23年度からブロック開催となることが決定した。関東ブロックは26年度開催となる。26年度は南関東、北関東は32年ということになっている。会場地については4県の中で調整となり頻りに順番が回ってくる。50mの屋内プール、飛び込み、シンクロという大会が開催可能な施設を同時期に整備した方がいいと考える。

・温水プール館では関東大会は可能だと思うが、全国クラスとなると支障があると思うので中長期的に県の中央部にそれなりのプールを作っていただきたい。

・スポーツ情報室については、一目瞭然で今どこの施設が空いている、またどこが使っているということを市町村も含めて全てインターネット化して、いろいろな施設が見られるようなことが必要。また、栃木県の殿堂者、昔から歴史のあるスポーツの方々のものを展示するような施設、県の博物館や美術館はあるが、スポーツに関しては無いと思う。それ

もスポーツの情報として、栃木県で活躍した人たちを見られるようなルームも必要と思う。

- ・県内の大会等の結果がわかる情報室とかがあると良いと思う。
- ・トレーニングルームについては、まずトップアスリートがけがの治療を行うところが必要であるし、筋力トレーニングとか最先端のトレーニングが出来るようなある程度のスペースは確保していただきたい。
- ・トレーニングルームはどちらかというところとトップアスリートのためではなく、一般の人が利用することを考慮した方が良い。
- ・トレーニングルームは県内の高校生等が基礎的な体力をつくることや、一般の県民が来て健康管理維持という面とを兼ね備えていないといけない。
- ・トレーニングルームは県南・県北体育館を最低ラインとして、トップアスリートと一般県民両方に対応出来る規模・機能が必要である。

陸上競技場兼サッカースタジアムについて

・観客席は、J1の新たな基準を想定すれば18,000席以上だが、県内サッカー関係者の間やサッカー協会でもアンケートや情報収集を行い、3万人規模はキープしてもらいたいというのが大勢の意見であった。国際試合、日本代表戦の誘致とか開催を考えた場合最低その位の個席は必要と考えている。

・陸上の場合、規模が大きくなると使用料も考えておかななくてはならないということもあるのだが、やはり本県のスポーツの象徴ということもあるので、スタジアムというのは大きい規模が良いので、3万以上が良いと思う。

・少なくとも日本代表戦ぐらいはサッカー界として招致してあげたいという強い希望がある。

・3万人規模というのは、栃木SCがJ2、J1に上がって、Jで活躍してということ想定して出てきたのだと思う。インターハイ、国民体育大会での利活用計画を考えると3万人規模というのは大きいけど、将来的にJ1で活躍して3万人規模というのは夢だがそういうものを想定しても良いと思う。また国体というのが長期的にあるので、各県の規模を見てもある程度のスタジアムの大きさが栃木県の中核にあって良いと思う。

・サッカー界ではキッズが非常に増えて盛んになっている。日本サッカー協会からの指導もあり、キッズに対していろいろな事業も展開されているので、いろいろなイベントを開催するということを考慮すればスタジアムの稼働率をあげることは可能である。

- ・スタジアムにおいて、チケットの販売ブースは外に設置していただきたい。販売ブースが中にあると各部屋等の配置がやりずらくなると思う。チケット販売ブースを入場口に別建てで作っていただきたい。

- ・熊本県のK K W I N Gだと屋根は50%しかないので出来れば100%が良いのでは。

- ・日本は非常に恵まれたスタジアムを持っている。3万人というのはドイツだと相当レベルの高いチームしか持てないし、オランダの1部リーグでも1万人を切るようなスタジアムはたくさんある。ただし、機能的に使われている。なので機能の方が非常に重要視されるのではと思う。

その他配慮すべき事項について

- ・今は公的な施設にも商業的な要素が入ってきているので、ネーミングライツ等の一定の商業性も考えていくということも必要と思う。

- ・中学生、高校生の利用を考慮し、公共交通網の整備を時間をかけて行って欲しい。